

## ありだ がわ 有田川町



コスモス



ヤマガラ



みかん



HPアドレス <http://www.town.aridagawa.lg.jp/>

### 町名の由来

2006（平成18）年1月1日（吉備町・金屋町・清水町）の3町の合併にあたり、公募し投票により決定された名称です。

新町の中央を、有吉佐和子の小説「有田川」などで全国的にも知られた清流有田川が貫いており、この川の恵みを受け発展してきた歴史があり、これからもその恵みの川を大切にしていきたいと考えています。また、「有田」の標記によりみかん産地のブランドであることもイメージできるということで町名と決定しました。



蘭島の棚田

### 町章の由来

ARIDAGAWAのAを 図案化し、そこに緑豊かな山、清流の有田川とまちの自然を表現し、全体の円形は町民の和とまちのさらなる発展を表しています。

### 町の紹介

有田川町では、「有田川がつなぐ、人と自然、山とまち、交流が未来をつむぐ」をテーマに、合併後のまちづくりに取り組んでいます。町内には、人や自然、産業、伝統文化など、さまざまな「きらめき」を感じることができる魅力があり、これまで長い歴史が培ってきた地域の宝を活かしながら、安心して暮らせる「きらめき ひろがる 有田川町」を目指しています。

## みはま 美浜町



ひまわり



松



HPアドレス <http://www.town.mihama.wakayama.jp>

### 町名の由来

1954（昭和29）年10月1日に松原村・和田村・三尾村の3村が合併して、美浜町が誕生しました。町名はその時に一般公募により名付けられました。

美浜町には地域の方々の誰もが自慢の「煙樹ヶ浜」「松林」があり、町民みんなの願いを込めた「美しい浜のある町 美浜町」と名付けられました。

### 町章の由来

「み」の字を以って波頭と鳥の雄飛するイメージを図案化。町の平和と融和、団結と協力を表し、併せて産業・文化の飛躍発展を単純明快に象徴しています。

### 町の紹介

「新時代のふるさと 美浜」～人がきらめき、緑かがやくまちをめざして～をキャッチフレーズに、次の6つの基本構想のもと、まちづくりに取り組んでいます。

1. 快適なまちづくり
2. 健やかでやすらぎのあるまちづくり
3. 育み、いきがいのあるまちづくり
4. 緑が映えるまちづくり
5. うるおい、活気のあるまちづくり
6. みのりあるまちづくり

日ノ御崎灯台の明かりが、はるか沖合いを走る船舶を導くように、常に現状を把握し、将来を見据えながら進んでいます。松林を地域の人たちが懸命に守り続けてきた気質、100年以上も前に遠くカナダに大きな夢をもった進取の気質、デンマーク人クヌッセン機関長の遺徳を今も伝承している気質、これら住民の皆さんを取り巻く環境や想い、行動を大切に守りながら前進している町です。

主な産業の特産品としては、農業関係ではビニルハウスによるキュウリの促成栽培、漁業関係では煙樹ヶ浜の地曳網で採れる「シラス」がとて有名で人気があります。また、夏には煙樹ヶ浜にあるキャンプ場は家族連れで賑わいます。



煙樹ヶ浜

# ひだか 日高町



あき



あこう

HPアドレス <http://www.town.hidaka.wakayama.jp/>



熊野古道「石畳道」

## 町名の由来

1954（昭和29）年、内原村・志賀村・比井崎村の3村が合併し、日高地方の中心的存在になるようにとの願いをこめて命名しました。

## 町章の由来

日高町の頭文字ひだかの「ひ」を図案化したもので、円形は住民の融和と團結を表し、上部の翼は町の飛躍、発展を象徴しています。

## 町の紹介

町の北東部を縦貫する熊野古道には現存最長の石畳道と共に、その沿道には多くの旧跡があり、四季を通じて訪れる人も多くいます。また南西部には、風光明媚な海岸線がつながり、この地域の恵まれた自然環境を生かした温泉館「海の里」では、健康づくりとともに、うるおいとやすらぎの場を提供しています。

日高町の将来像を「人と自然が共生し、豊かでうるおいのあるまち“ホットタウン・ひだか”」と設定し、この将来像を達成するため、

- ①まちづくりの主体となる人づくりに努める
- ②一人ひとりの自立した生活を支える
- ③一人ひとりが安心できる環境づくりに努める
- ④一人ひとりの暮らしの基盤を整備する
- ⑤まちづくりを一体となって進めていく

以上5つを施策の基本におきまちづくりを進めています。

# ゆら 由良町



すいせん



紀州横柏

HPアドレス <http://www.town.yura.wakayama.jp/>



白崎海岸

## 町名の由来

ユラの地名は、万葉集にも詠まれ、奈良朝以前にさかのぼります。その後、古代末には由良川沿いの地域が「由良荘」となり、白崎・衣奈両地区の「衣奈荘」とともに現町域を形成していました。近世に入って日高郡奉行支配下におかれてきましたが、1889（明治22）年の町村制実施にあたり「由良村」となりました。その後、1947（昭和22）年に「由良町」となり、1955年に由良町・白崎村・衣奈村が合併して現在の由良町となりました。

## 町章の由来

由良町のカタカナの「ユラ」を上下に配し、全体の円形は、町民の和と円満な発展を表し、横線は町民の一致協力と町躍進雄飛を表したものです。

## 町の紹介

由良町は、大小の入り江が点在するリアス式海岸が連なり、「日本の渚百選」に認定された風光明媚な白崎海岸が有名で、その半島部分に白崎海岸公園が設置されています。この公園は、クラブハウス内や周辺の海岸でのダイビングや、オートキャンプ、展望台などの施設があり、一日をゆったりとくつろぐことができ、リゾート施設として年中多くの人で賑わっています。

興国寺はかつて法燈派の大本山であり、春は桜で山が桃色に染まり、夏は緑深く、秋は紅葉に彩られます。県の無形民俗文化財に指定されている燈籠焼は全国的にも有名です。

そのほか、海釣り公園、戸津井鍾乳洞など見所は多く、休日の一日を思う存分楽しめます。

# ひだかがわ 日高川町



HPアドレス <http://www.town.hidakagawa.lg.jp/>

## 町名の由来

日高川町は、2005（平成17）年5月1日に川辺町・中津村・美山村の3町村の合併によって誕生した町であり、古くから共通財産である清流「日高川」に育まれた美しい自然や文化、歴史等があるととも地理的にイメージできる名称です。

## 町章の由来

外側の円は、日高の日と旧町村の和を表し、その中に緑の高い山並みと、青く澄んだ川の流れをもって、日高川町を表現しています。全体として、旧町村が丸く融和し、豊かな自然をアピールし、自然と共生する活力ある町の発展を願う町民の想いを表しています。

## 町の紹介

本町は、和歌山県のほぼ中央部、日高川の中流域に位置し、大阪市内から特急で約1時間半のところにあります。町の約9割は林野で占められ、東の山間部から西の平野部へと地形が変化し、四季の変化に富んだ風光明媚な景観を呈しています。産業としては、みかんを中心とした農業や紀州材として林業が盛んな地域で、紀州備長炭の生産量は日本一を誇ります。また、安珍・清姫伝説で有名な和歌山県下に現存する最古の寺「道成寺」をはじめ、文化財・歴史遺産や伝統が今でも数多く残されています。さらに年間を通して見所がたくさんあり、星空観察とプラネタリウム体験ができるかわべ天文公園、4月下旬から5月上旬に見頃を迎える長さ日本一のみやまの里藤棚ロード、5月下旬から6月中旬には町内各地でホタルの幻想的な乱舞がみられ、夏期には緑に抱かれた清流沿いでのキャンプ、晩秋の紅葉狩りなど、温泉施設も含め多くの地域資源があり、地域の活性化と都市間交流を目的とした各種イベントも開催しています。



かわべ天文台（天文台と1m望遠鏡）

# いなみ 印南町



千両

イサキ（勇紀）

杉

HPアドレス <http://www.town.inami.wakayama.jp/>

## 町名の由来

町名の語源については明らかではありません。

宇奈辺の転語「宇と印」「辺と美」は通ずる語であり（「紀伊統風土記」印南荘）、また「海波の稲穂の波に似るによる」との伝承もあります。

## 町章の由来

この町章は I N A M I の頭文字「I」を図案化したものです。先端の高いところは山で林業、中央の空白は平野で農業、両端の切り込みは港で漁業を表しており、自然と人との調和のとれたゆるぎない印南町の前途を象徴したものです。

## 町の紹介

印南町は、和歌山県西部海岸のほぼ中央に位置し、8kmにわたる海岸線を基底に北東20km延びた地形をしています。北から東にかけては御坊市・日高川町・田辺市に、南東はみなべ町に境を接しています。

背後には緑豊かな紀伊山地が広がり、そこから流れる印南川と切目川が流域の田畑を潤しながら太平洋に注ぎます。温暖な気候と地形を活かし、多彩な農作物が生産されています。1年を通じて旬の野菜や果物、みずみずしい花が絶えることがありません。

また、毎年10月2日に行われる印南祭りは、県無形文化財の「重箱獅子」や、御輿と屋台が印南川を渡る「お渡り」などがあり、京阪神からの見物客も多い大変勇壮な祭りです。

近年、京阪神と町を直結する高速道路が開通しました。海も山もある豊かな自然を守りながら、産業の振興と住民生活の向上を図ります。



印南祭